

性同一性障害



岡山大は二
ジェンダーケ
開設し、ホル
性別適合手術

乗めン
から計画

面支援へ調査

大大学院 受診者300—400人に

社会生活で悩み、どうかや家族の本人への
当事者は多く、接し方、自分への自信の
セリングなどの支 持ち方、つらい状況に遭
分とはいえない。 遇した時の立ち直り方な
療では難しい実際の生活
場面での支援につなぐ
ば」と話している。
(阿部光希)

身体的な性別と心の性別に違和感を持つトラ
しはれる人に必要な精神的サポートを探るた
塚幹也教授らが当事者への大規模な調査に
と共同で岡山大病院の受診者三百—四百人
把握が難しい個人個人の複雑な問題を整理
を探る。

しかし、外見上 アンケートは、自分の
性に近づけても、性への違和感の度合いや
偏見の目を向けら 本人の意識に関する約百
、対人関係に自信 四十項目。心の性通りに
ず家に閉じこもっ 社会生活を送れているか

を細かく尋ねる。
今後、同クリニックを
受診する男女に一、二年
かけてアンケートを手渡
して回収。五年ほど後に
同様の調査を行い、意識
の変化などを調べる。
中塚教授は一調査で当
事者のタイプをある程度
分類できれば、専門知識
を持たない臨床心理士も
かわりやすくなる。医